大仙市立西仙北中学校

# 羽ばたこう　立志の丘から

平成２８年度　学校通信

平成２８年７月６日
No.１３

## ついに始動！　リノベーション！！

６月29日、大仙市と協働プロジェクトとなる西仙北中学校地域活性化プロジェクトが、ついに動き出しました。

先に西仙北地域協議会において、生徒の想いをプレゼンテーションとして述べ認められたプロジェクトですが、有限会社佐々木工務店様の全面的なバックアップの下、ついに始動しました。

29日は、佐々木工務店の佐々木専務様を初めプロの職人さんの指示・指導の下、壁の解体を行いました。電気の配線等の危険箇所はプロの職人さんが作業してくれました。

その後の作業には、生活文化部のメンバーが当たりましたが、佐々木西仙北支所長さんや地域活性化推進室の新田さんも駆けつけてくれました。

作業中、道行く人は中学生の活動を興味深く見守ってくれました。その中で、中学生の作業を見ていた近所のプロの職人さんが、「見てられないなあ」と言いながら、自前の道具持参で、早速中学生の作業を手伝ってくれました。プロの技を間近に見た中学生は感心しきりでした。

大人との協働作業、街中での中学生の実際の行動、そして地域の方々とのふれあい、既にプロジェクトのねらいが達成されつつある、初日でした。

## 避難訓練２　不審者対応

７月１日、今年度２回目の避難訓練として不審者対応訓練を行いました。これは、学校に不審者が侵入したという想定の下、生徒の安全確保、不審者への対応、身柄確保に職員及び、警察職員が

対応するという訓練でした。

訓練には、大仙警察署職員及びスクールサポーターから来校いただき、不審者役を務めていただくとともに、訓練後の講師として不審者対応等についてご指導をいただきました。特に、職員の不審者への対応やさすまたの使い方、手を捕まれたときの護身術等を教えていただきました。

大阪池田小学校の事件以来、学校の安全神話は崩れ、不審者についてもどこでも起こり得る事案として、その対応等が求められております。また、学校に限らず、街中や商業施設での通り魔的事案も報道されております。まずは、自分の命を守ること。予期せぬ事案にも冷静に対応できるよう心がけていきたいと思います。

## 和栄堂さんで生徒デザインの和菓子第3弾販売！

昨年から行っている和栄堂さん（刈和野）とのコラボレーション、第３弾が販売されました。

毎年、２年生の美術科で地域のよさを生かした創作和菓子の制作に取り組んでいます。生徒一人一人が感じたふるさと西仙北のよさを地域の方々に感じてもらいたいということから、和栄堂さんに商品化をお願いし、昨年から２作品商品化されております。

今年は、男子生徒、刈和野の佐々木君、土川の小木田君の作品を合わせたものとなりました。涼しげな色彩と元気の出るような黄色い太陽。西仙北の誇り「ひまわり」のイメージもあります。

皆さん、是非味わってください。「 陽～Sun×２」と名付けれました。西仙北中生の豊かな感性も一緒に味わっていただければ幸いです。

## 社会を明るくする運動

５日は社会を明るくする会の皆さんが、生徒の登校時間に合わせて来校して、玄関前で、あいさつを交わしながら「社会を明るくする運動」の趣旨を記載したポケットティッシュを生徒に渡してくれました。

主唱は法務省です。「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」、「立ち直りを決意したひとを、決してあやまちに戻さない。あなたの『おかえり』のチカラで、支え合う社会へ。」

さわやかなあいさつとともに生徒たちの意識啓発をしてくださいました。ありがとうございます。進めている地域との連携の大切な一場面でした。

## 国語の授業～プレゼン

４日と５日、２年生の国語の時間は、プレゼンテーションの授業でした。

「魅力的な提案をしようープレゼンテーション」～「メディアと上手に付き合うために」各班からの提案～という授業で、テレビや新聞、ラジオ、インターネット、書籍本、手紙・電話の班に分かれ、それぞれ、メディアとしてのメリットやデメリットを調査し、根拠をもって提言する学習でした。どの班も、アンケート調査結果等をよくまとめ、自分たちの提言を発表していました。プレゼンの切り出しとしての引きつけ方、根拠をもった説得力のある内容、また資料の提示の仕方等、よく工夫されていました。

これからの社会では、国際的視野をもったプレゼンテーション能力は重要な力になります。その基礎となる部分が養われる国語の授業でした。コミュニケーション能力も高い２年生です。みんなで伸びていきましょう。

## PTA講演会　＆　学年懇談会

７月５日は、ＰＴＡ講演会と学年懇談会が行われました。講演会は、ＰＴＡ研修部主催で、大仙市高齢者あんしん相談室西部（地域包括支援センター）の保健師　齊藤郁恵氏を講師に「認知症サポーター養成講座」が行われました。

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る「応援者」である認知症サポーターを養成する取組についての講演でした。厚生労働省「認知症を知り地域をつくる」キャンペーン「認知症サポーターキャラバン」としての事業でもあります。

本校では親子で一緒に学ぶ講演会として企画し、全校生徒と保護者、職員、地域の方々合わせて240名ほどが参加しました。講師の齊藤氏は、中学生を対象とした講演は初めてだと話していました。見守りが地域連携ということもあり本校にとっては、たいへんタイムリーな講演であり、少子高齢化の進む昨今、求められている知識・内容の講演会でした。また、本校の先生方やサポーターチームの寸劇も織り込まれ、中学生にとってわかりやすい講演で、中学生も日頃から心がけていきたい内容でした。

その後の学年部会では、前期前半の学校生活の振り返りや夏休みを有意義に過ごすための懇談でした。また、春の「ＮＩＳＨＩＳＥＮ陸上」やこれまでの校内生活などの様子を記録した、生徒たちの明るく笑顔があふれるＤＶＤなども流されました。多数の参加ありがとうございました。